花粉症患者における咽喉頭症状におけるプランルカスト水和物の有用性

村嶋智明、伊藤周史、三村英也、内藤健晴
藤田保健衛生大学医学部耳鼻咽喉科学教室

【背景および目的】

2011年のスギ・ヒノキ花粉飛散シーズンにおける花粉症患者を対象に鼻の3大症状(くしゃみ、鼻漏、鼻閉)、後鼻漏、咽喉頭異常感、嗅覚障害およびQOLについてロイコトリエン拮抗薬(プランルカスト水和物)の初期治療の有効性について検討を行った。また、後鼻漏と咳嗽の関係について検討した。

【対象】

藤田保健衛生大学病院および関連病院を受診したスギ・ヒノキ科花粉症患者24例とし、2011年の名古屋市におけるスギ・ヒノキ科花粉の飛散状況により初期治療群17名、飛散後治療群7名の2群に分けた。

【方法】

対象患者にロイコトリエン拮抗薬であるプランルカスト水和物1カプセルを1回2カプセル、1日2回経口投与し、それぞれの症状、項目の評価および比較検討を行った。

【結果】

鼻の3大症状のうち鼻閉、後鼻漏感および嗅覚障害においては初期治療群が有意にその重症度を抑制した。後鼻漏の有無と咳嗽の性質において、後鼻漏の有無と咳嗽の性質は必ずしも関連性がないことが示唆された。また、QOLにおいても初期治療群で有意にその改善を認めた。